

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (R1-16号)

令和元年9月10日

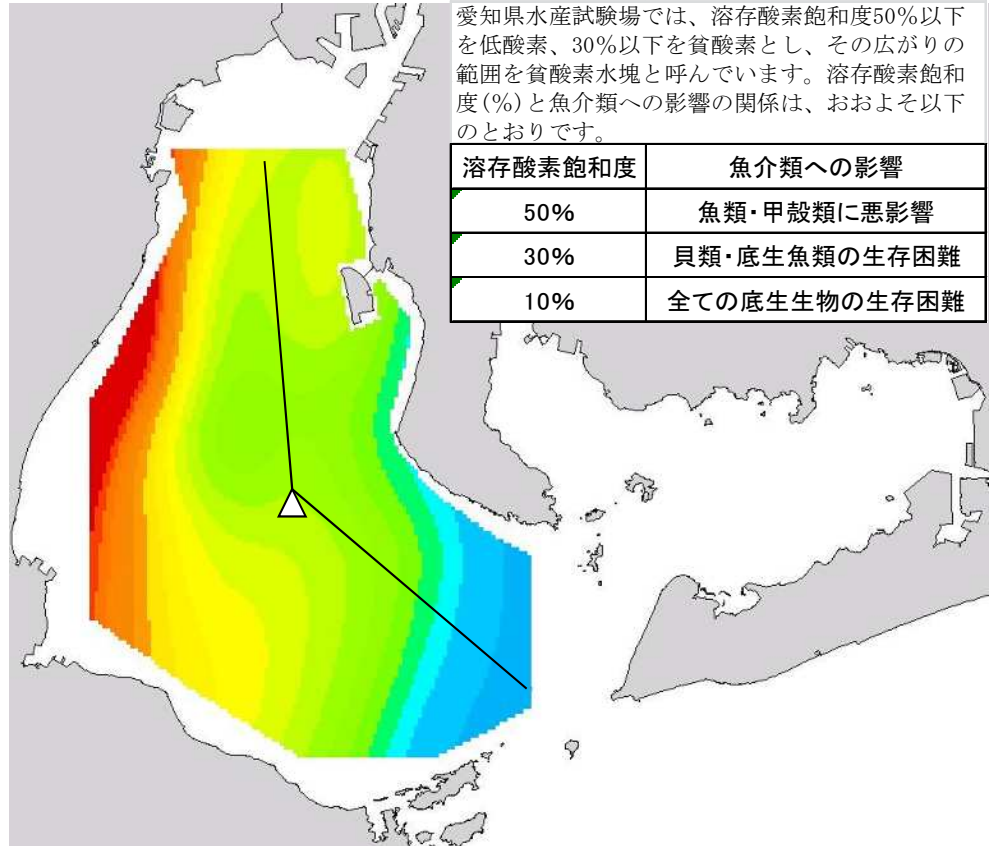
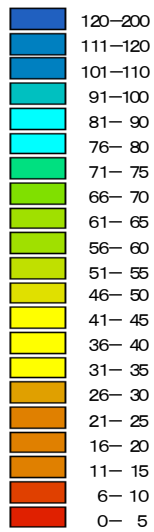
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和元年9月4日に伊勢湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。

愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素とし、その広がり範囲を貧酸素水塊と呼んでいます。溶存酸素飽和度(%)と魚介類への影響の関係は、おおよそ以下のとおりです。

溶存酸素飽和度	魚介類への影響
50%	魚類・甲殻類に悪影響
30%	貝類・底生魚類の生存困難
10%	全ての底生生物の生存困難

溶存酸素飽和度(%)



伊勢湾奥

湾口

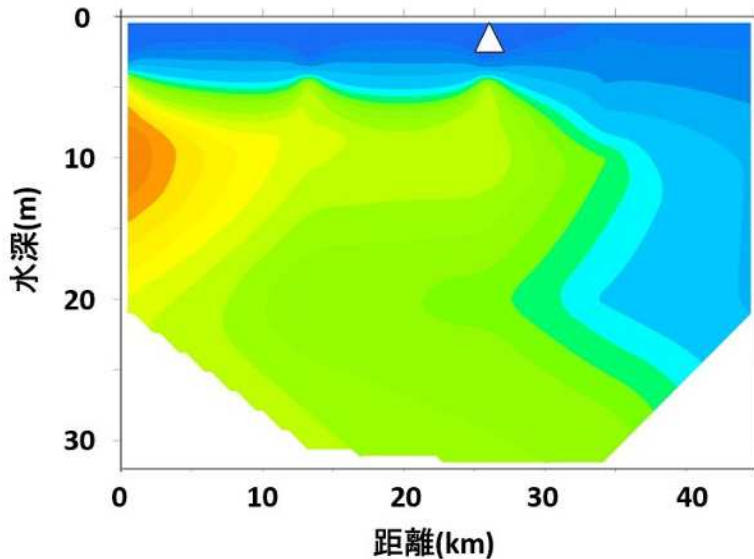


図1 伊勢湾(9月4日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)  
(三重県「あさま」調査)

## 伊勢湾

9月4日の調査結果を図1に示しました。三重県の沿岸に沿って貧酸素水塊が確認されました。また、鉛直分布図をみると、湾奥では水深10m付近に貧酸素水塊が分布している様子が観測されました。

気象庁が発表した週間予報では、最高気温、最低気温ともに平年並か平年より高く、かなり高い日もあると予測されています。このため、今後は海水の上下混合が起こりにくく、貧酸素化が進行すると考えられます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.1~28.8	11.7~30.4
底層	20.2~24.4	31.6~34.3

## 参 考

前回調査時の底層の溶存酸素状況 (図2)

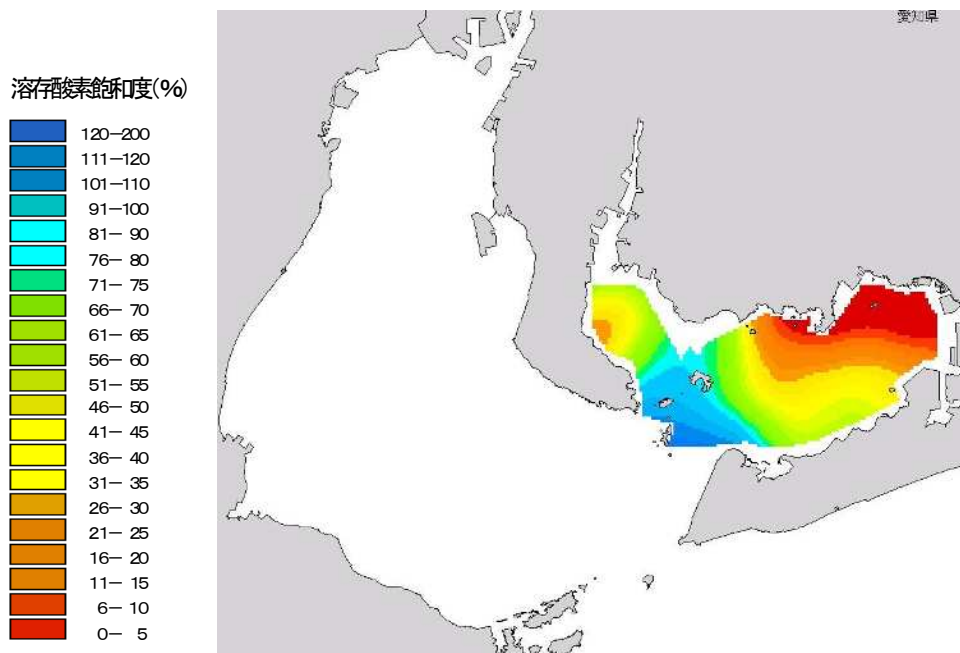


図2 令和元年9月2、3日 (三河湾)